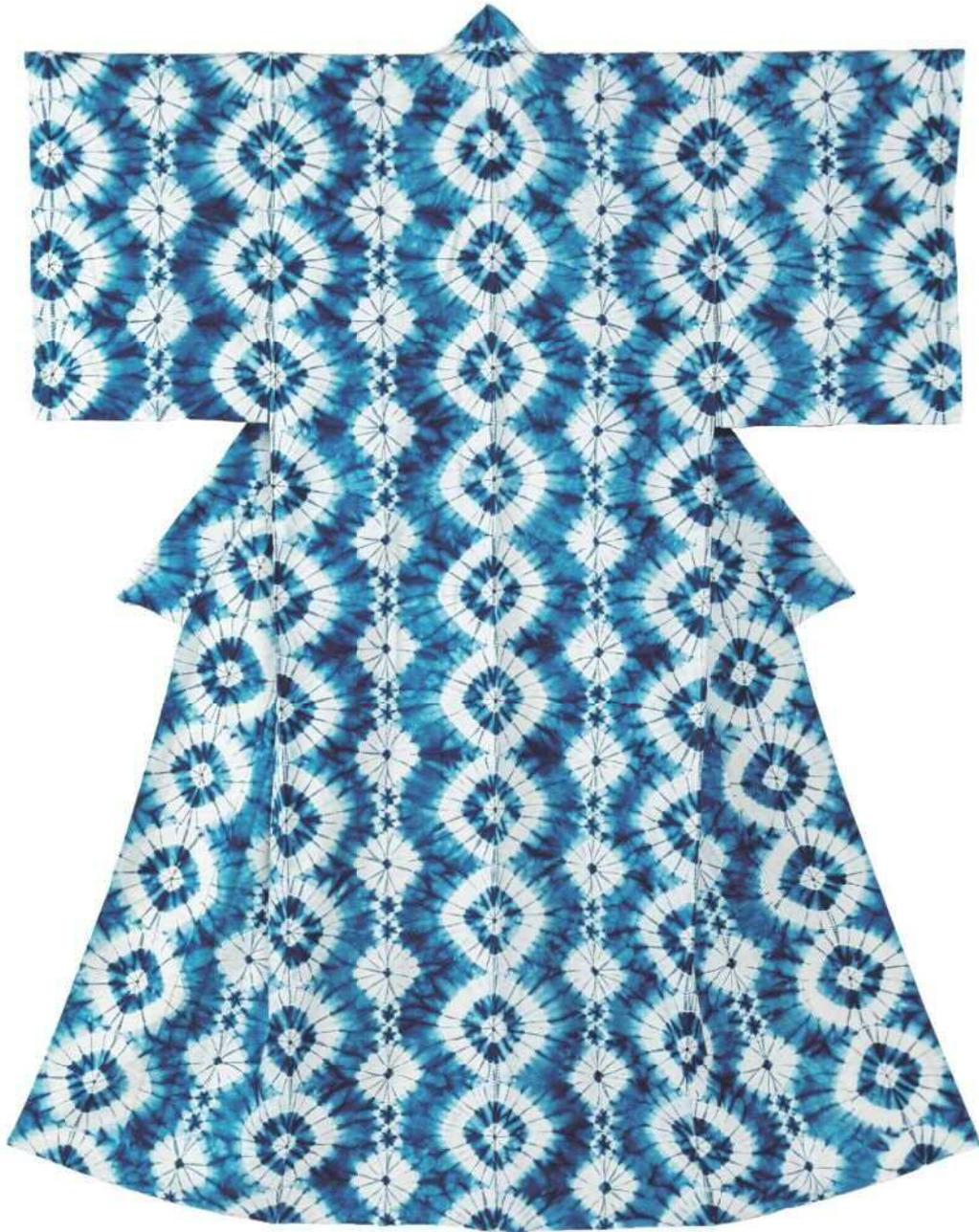


# 豊田市民芸館 だより



花傘絞り浴衣 岸野頼子 平成

## 目次

- ・特別展「柳宗悦と民藝運動の作家たち」を終えて…………… 2・3頁
- ・小林孝亘3館連携特別展示…………… 3頁
- ・企画展「新収蔵品展」資料紹介…………… 4頁
- ・民芸の森から…………… 5頁
- ・旧日本多静雄邸（豊田市民芸の森）を訪れた柳宗悦…………… 6頁
- ・令和4年度展覧会案内…………… 7頁
- ・民芸館からのお知らせ…………… 8頁

第32号

# 特別展「柳宗悦と民藝運動の作家たち」を終えて

特別展「柳宗悦と民藝運動の作家たち」は、柳が主導した「民藝運動」を共に推進した多様なつくり手たちの仕事を紹介し、多くの新作民藝の優品を残した作家たちの行跡を見つめ直すことを目的としたものでした。2017年に日本民藝館創設80周年を記念して開催された同名の展覧会の出品作を軸にして、本展では豊田市民芸館の展示空間にあわせて再構成を試みました。展示は、柳宗悦と彼の周囲に集まった民藝作家26人の、代表作品を含む約230点で構成され、大変見応えのあるものとなりました。まずはこれだけ多くの貴重な作品の貸し出しを快く許諾していただいた日本民藝館に、深くお礼を申し上げたいと思います。

筆者は今年4月、長く学芸員として携わった豊田市美術館から豊田市民芸館へと職場が異動しました。この特別展は、私が民芸館で担当する初めての展覧会となったのです。これまで美術館ではさまざまな展覧会を担当してきましたが、これだけ多くの工芸品をあつかう展示は経験したことがありませんでした。今回、日本民藝館の月森俊文学芸員に作品の取り扱いから展示の技術や方法まで詳しく指導をしていただいたのですが、その過程でいくつかの新しい発見がありました。中でも最も印象に残ったのは、美術館と民芸館では学芸員の基本的な展示に対する向き合い方が異なるということです。美術館では、学芸員は作品の展示についてさまざまな演出を試みる表現者として関わるができるというスタンスでした。一方、民芸館では、作品が最も自然で美しい姿で見られることを第一義とし、学芸員は展示に関してあくまで黒子的な立ち位置をとることが好ましいとされることでした。もちろん民芸館の展示においても、学芸員は作品の形状や素材、色や大きさなどに留意して、見る者の眼に心地よいう、並べ方に十分工夫を凝らしていきます。ただしここで大切になるのは、展示する側の意図や計らいを観る者に感じさせないよう配慮すること。作品の美しさを展示のさまざまな技術で引き出しつつ、それをごく自然に見せることが求められるのです。"展示演出をしていないように演出してみせる"というのは、なかなか難しく、高度なテクニックと豊かな実践知が必要となるのです。

上述した民藝の展示の際に学芸員が留意すべきことはまた、民藝作家と呼ばれるつくり手たちがものづくりのプロセスにおいて志向していたことと、やはり通じるところがあります。柳宗悦は「美しいものをつくる」ということについて、「自由が形をとった時、美しいものが生れる」(『柳宗悦コレクション 2 もの』365頁)と極言し、「自由とは、第一に、私からの自由が根本であり、第二に「はからい」からの解放が重要になる。」(同)と説きました。こうして民藝の美しいものを理想とする作家たちは、作為や意図、「はからい」、利己心などの人為的なねらいから極力自由になることをものづくりの要諦とします。自分の小さな個性のままに、新奇さや他のつくり手と違うものを目指したり、芸術性やオリジナリティを発揮しようとしたりすることは

避けるべきだとみなしたのです。今回の出展作家の仕事をつぶさに観察すると、いかにして自分を表に出さずに自然な美しいものをつくり出すか、心をくわいてきた様子がよくわかります。たとえば、陶芸家の仕事に焦点をあててみましょう。柄杓に釉薬をいれて、皿に直接流しかける「流し掛け」、器などにランダムに力強く釉を打つ「点打<sup>てんうち</sup>」、チューブ型の筒で柔らかい粘土を絞り出して描く「いっちゃん描き」など、いずれも作家自身の



第1民芸館展示風景

手では細かな制御が効かない技法を積極的に採用しているのです。民藝作家たちは制作する過程にさまざまな「制約」を課し、敢えて不自由な手法を選択することで、創作から個の意図「はからい」を遠ざけようとしているかのようです。もちろんこうした手立てを用いなくても、内なる激しい創作意欲に身を任せることで、自我への執着などを易々と飛び越えてしまう作家もいます。その一方で、どうしても制作のプロセスで自我の意識が働いてしまい、ものづくりにもがき苦しんだ作家もいたことでしょう。今回の展覧



第2民芸館展示風景

会では、こうした民藝の作家と呼ばれる人たちの仕事の多様さが見えてくることも大変興味深いものでした。

以上、今回の特別展を担当して見えてきたことの一端を記述しました。柳宗悦没後60年を経た今、柳とその仲間たちによって推進された、民藝をめぐる実践と思索を広い視野からあらためて見直すこと。それは、人と人、人とモノとの関係が希薄になりつつある現代の日本において、いかにして美しいものを生み出すことができるのか、またそうした美しいものの魅力をどのように人に伝えていくのか、という大きな課題に対する重要なヒントを与えてくれるのです。

(都筑 正敏)

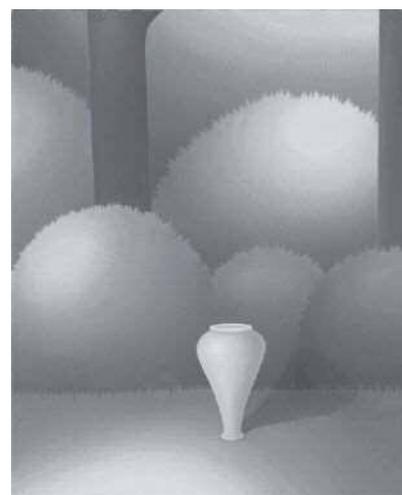
## 小林<sup>たかのぶ</sup>孝巨 3館連携特別展示(美術館+民芸館+民芸の森)

豊田市民芸館と民芸の森では、豊田市美術館で開催される「サンセット／サンライズ」展の開催にあわせて、出展作家の小林孝巨の絵画作品を展示します。

小林孝巨は1960年東京生まれ。1986年に愛知県立芸術大学美術学部油画科を卒業した後、潜水艦が画面に登場する初期の連作を手始めに、犬、水飲み場などを特徴的な形態と筆致で描いて注目されました。1996年には文化庁の芸術家在外研修員としてバンコクに滞在。その後も1999年から2012年までバンコクと東京を行き来しながら制作を続け、木漏れ日や眠る人、枕や食器といった身のまわりのものを題材に落ち着いた深みのある色合いと独特な構図をもつ絵画作品によって高い評価を受けてきました。2012年からは神奈川県逗子市にアトリエを設け、現在も意欲的に制作を続けています。

今回小林には、「絵画にしかできないこと」をテーマに、民芸館では「器」を、民芸の森では「森」をモチーフにした作品を出品していただく予定です。

ぜひこの機会に3館を巡り、それぞれの展示空間と呼応した小林孝巨の作品をご覧くださいただけたらと思います。



小林孝巨《Inverted Vessel》2015年  
油彩／カンヴァス

2月15日(火)～5月8日(日) 豊田市美術館「サンセット／サンライズ」展

2月8日(火)～5月29日(日) 豊田市民芸館(第1民芸館)／豊田市民芸の森(青佳居)での展示

# 企画展「新収蔵品展」資料紹介

令和4年2月8日(火)～5月29日(日)の間、企画展「新収蔵品展」を開催しています。当館では民芸の普及・啓発のため日頃から優れた資料を収集しており、この展覧会では、平成26年度から令和2年度に収集した資料のうち、日本民藝館展(東京・駒場の日本民藝館で年1回開催される新作工芸品の公募展)の優品、こけしなどの郷土玩具、絞り染め、手漉き和紙、ころも焼などのやきもの等、未展示資料を中心に紹介しています。

今回は展示資料のうち、有松絞りの浴衣地についてご紹介します。

朝顔文浴衣地(部分) 濱島とみ 昭和20年代  
幅34.0cm 長さ1030.0cm



有松絞りは分業制のため、この浴衣地(反物)は多くの職人の手を経て作られました。完成するまでの主な6工程を紹介します。

## ① 型彫り

図案決定後、小刀や目抜きを使って型紙を彫ります。この型紙は複数枚の和紙を重ねて柿渋を塗った防水性のある紙です。現在ではビニール製のものも使います。

## ② 絵刷り

型紙を布の上に置き、青花(ツクサの汁、本青花とも)と呼ばれる染料を刷り込みます。最近では化学青花(でんぷんとヨウ素を反応させたもの)を使うこともあります。本青花は水、化学青花はお湯で洗うと色が消えます。

## ③ 絞り加工

有松での絞り技法は100種類以上もあって複雑多岐にわたるため、絞りを施す職人は基本一人につき一つの技法を継承します。そのため複数の技法を組み合わせた図柄にする場合は、その分の職人の手を経ることとなります。

## ④ 染色

藍染め(草木染め)から化学染料による染色まで、それぞれ専門の染屋が主に浸し染めで行います。

## ⑤ 糸抜き

絞り染めは糸で括ったり縫ったりすることで防染しています。絞り方の種類によって生地を手で引っ張ったり、糸だけ引っ張ったり、はさみなどの道具を用いて解いたりなど、布の破損に注意しながら糸抜きをします。

## ⑥ 仕上げ(湯のし)

絞りによって縮んでいる生地を蒸気を当てて<sup>はば</sup>巾出しをします。絞りの特徴である凹凸面の美を残しつつ反物を仕上げます。

写真は昭和20年代に制作された浴衣地です。絞りの技術としては「小帽子絞り(真っ白な朝顔の花)」「大帽子絞り(右側の白い部分)」「巻上げ絞り(模様のある朝顔の花)」「折縫い絞り(朝顔の蔓や葉)」「三浦絞り(左側の円の集合体)」が施されています。この絞りを施した職人のうちの一人が、昭和59年(1984)に「小帽子絞り」で有松鳴海絞の伝統工芸士に認定された濱島とみ氏(1906-2003)です。小帽子絞り<sup>はば</sup>と大帽子絞りの部分は氏の手によるもので、折縫い絞りや巻上げ絞り、三浦絞りは、他の職人が施しました。

(岩間 千秋)

## 本多静雄ゆかりの地を巡る美濃バスツアー 10月14日(木)

本多静雄氏ゆかりの地を巡る第4回のバスツアーとして、20名が参加し、今回は岐阜県美濃地方の荒川豊蔵資料館・美濃陶磁歴史館など本多氏と交流のあった陶芸家の作品や本多氏がコレクションしていた美濃の古磁器などを展示している施設を訪ねました。

美濃陶磁資料館では岐阜県土岐市に花の木窯を築窯し、本多氏と長年交流のあった陶磁研究者で陶芸家の小山富士夫氏の特別展などを見学し、本多氏と美濃の陶磁器との関わりへの理解を深めました。



荒川豊蔵資料館で説明を受ける参加者の皆さん

## 民芸の森 観月会 10月16日(土) 来場者：486人

昨年に引き続きNPO法人民芸の森倶楽部へ運営委託をして行いました。今年は演目に合わせ2部構成とし、会場では例年の竹行灯に加え、絞り染めの展示、参加型の俳句コーナーや森の市、お抹茶コーナーなどの飲食店の出店を行いました。

地元高校生や関係団体等の協力もあり、たくさんの方に秋の夕べを過ごしていただきました。

陽が落ち月が出る直前の狂言舞台での演奏の様子



## 森のアート展 Vol.15 「ガラスの装飾 とんぼ玉 ～古代から続くゆらめく炎 この先へ～」 10月23日(土)～11月28日(日) 入館者：818人

豊田市民芸館講座「とんぼ玉(ガラス工芸)講座」の講師 椎葉佳子氏とアシスタントの森田せつ子氏、楠純子氏の作品を展示。10月31日には都筑館長との対談形式でギャラリートークを行い、展示作品の説明ととんぼ玉の歴史や魅力を語っていただきました。



ギャラリートークの様子

## 勘八峡紅葉ウォーキング 11月20日(土) 参加者：175人

民芸の森を発着点として越戸ダムを渡って勘八峡を一回りする約4 Kmのコースを約180名の方が参加されました。平戸橋1区、名鉄学園杜若高等学校、平戸橋いこいの広場、中部電力愛知水力センター、国土交通省名四国道事務所など、地域の皆さんの協力をいただいて実施しました。

今年は「石を巡る」をテーマに心傷の石碑などを巡るコースを設定、参加者の方からは見過ぎていた石碑を再確認できたとの声がありました。



心傷の石碑

## 田舎家(青佳居) 展示のご案内

### 森の本多コレクション展 第4回 日本六古窯一常滑 1月22日(土)～4月10日(日)

日本六古窯シリーズ最終回です。本多静雄氏の集めたコレクションの中から常滑の資料を展示しています。

### 森のアート展 Vol.16 「野田宗憲 陶芸作品展」 4月29日(金)～7月10日(日)

民芸館陶芸講座講師 野田宗憲氏の作品を展示します。

# 旧 本多静雄邸(豊田市民芸の森)を訪れた柳宗悦

平成28年(2016)に開館した豊田市民芸の森は、猿投窯発見者と知られる名誉市民・本多静雄(1898-1999)の旧邸です。本多は、豊田市民芸館の設立をはじめ民芸の普及に尽力しました。

本多氏が民芸と係わるきっかけは、昭和20年暮れに東京・駒場の日本民藝館を訪れ、柳宗悦と出会ったことです。

今回は、柳宗悦が民芸の森を訪れた際のエピソードを紹介します。

昭和31年(1956)10月、名古屋民藝協会の発会式の翌日、柳宗悦と濱田庄司ら一行は、豊田市平戸橋町にある本多静雄邸(現・豊田市民芸の森)を訪れています。そこで柳は、多くの猿投窯発掘資料の中から、第一に宝珠硯(写真1)に目をつけ、その作行を激賞されました。柳は「私の知人に硯を作る名人がいる。どうですか、この硯を一つそのまま作らせて見ては。その気があるならいつでも紹介しますよ」と繰り返しいわれました。本多は柳の好意に喜んだがお受けしませんでした。それは、既に京都から平戸橋に移住した陶芸家・河村喜太郎に頼んでいたからです。翌32年柳から本多へ書籍の寄贈のお礼の手紙に、「こんな鉛筆描で失礼します。拝見した陶硯はお大事に、今も頭の中にあります。」(写真2)と宝珠硯のことが書かれていました。

苦勞して復元され宝珠硯(写真3)は、本多から病床の柳をお見舞いした際に贈られました。柳はその硯を見て、「こういうことをやらせたら、目下のところ日本一だと思ふ河村喜太郎にして、なおかつ、これだけのものしか出来ないのか。宝珠硯の復元は無理だな」といわれたというエピソードが残っています。

また、昭和26年8月には、本多が郷土の発展のため設立したヤハギ川観光協会が平戸橋で開催した第2回夏期文化講座では、柳宗悦は「茶器の性質」という演題で講演をしています。この時の詳細は不明です。

昭和58年4月、平戸橋公園内に日本民藝館旧大広間を当時の館長柳宗理から打診を受け、本多がもらい、豊田市が寄贈を受け、開館しました。開館記念の講演会は倉敷民藝館館長であった外村吉之介が行っています。この時、同時に本多邸では「陶器と桜を観る会」(観桜会)開かれており、外村も訪れたものと思われます。

「陶器と桜を観る会」には、柳宗悦の長男の工業デザイナーで日本民藝館館長を務めた柳宗理も東京から参加しています。また、日本民藝協会が主催する日本民芸夏期学校では、平成元年に豊田で開催された際にも柳宗理は訪れています。

このように豊田市民芸の森が、豊田の民芸にとって、本多静雄と柳宗悦をはじめ民芸関係者が交流した重要な場所であったことが分かります。

これからも、民芸の森が本多静雄の民芸を伝え、民芸を広く知る場とし、多くの人々が集い、交流することで、新たな豊田らしい民芸を考え、築いていく場となることを願っています。

(児玉 文彦)

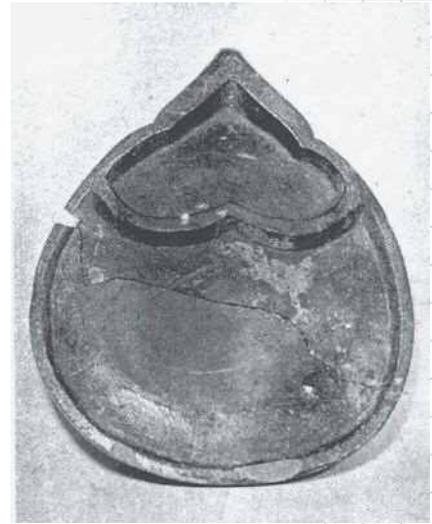


写真1 宝珠硯

\*写真1、2は「名古屋民藝」第13号 本多静雄 須惠宝珠硯 (昭和32年10月)より転載。

宝珠硯は、黒笹3号窯から出土。その命名は、奈良国立博物館館長だった石田茂作が本多邸に陶硯を見に来た時に名付けられました。現在、宝珠硯は本多が愛知県陶磁資料館美術館に寄贈し収蔵されています。

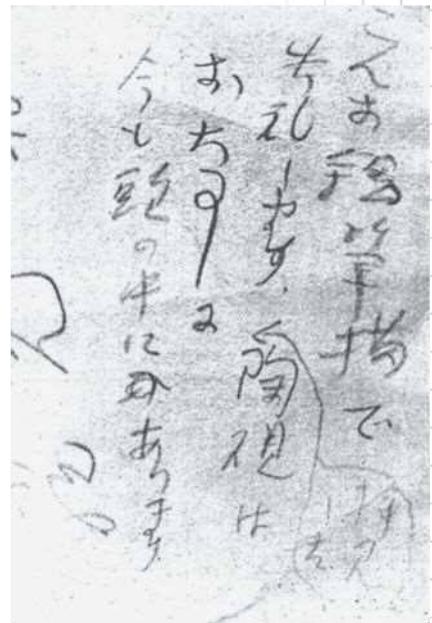


写真2 柳宗悦の書簡(部分)  
現在この書簡の所在は不明です。



写真3 宝珠硯と箱書 河村喜太郎作(豊田市民芸館蔵)  
柳宗悦に贈られた宝珠硯と同じもの

## 企画展『新収蔵品展』 第2民芸館

同時開催『手仕事の優品展』 第1民芸館

～5月29日(日) <観覧料 無料>

当館では民芸の普及・啓発のため、日頃より優れた資料を収集しています。今回は平成26年度から令和2年度に収集した資料のうち、未展示資料を中心に紹介します。

《主な展示資料》

日本民藝館展の優品、土人形やこけしなどの郷土玩具、衣焼などの陶磁器、編組品、有松・鳴海絞りなどの染織品、手漉き和紙など



しめ縄 祝酉 甲斐陽一郎  
平成29年度日本民藝館展入選

## 企画展 雑誌『工藝』の美 第2民芸館

同時開催『名誉市民 本多静雄コレクション展』 第1民芸館

6月7日(火)～8月28日(日) <観覧料 無料>

昭和6年(1931年)に創刊した『工藝』は、柳宗悦を中心に編集刊行された月刊誌です。それは、雑誌そのものが「工芸的な作品」であるべきという発想のもと、「民藝」のコンセプトを全国に広める重要なメディアとして機能しました。本展では、機関誌『工藝』全120冊を一堂に展示するとともに、豊田市民芸館が所蔵する民藝作家の作品を紹介します。

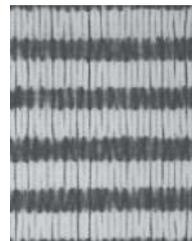


機関誌『工藝』

## 特別展『藍染の絞り 片野元彦・かほりの仕事』(特別協力:日本民藝館) 第1・2民芸館

9月13日(火)～12月4日(日) <観覧料 有料>

藍染絞りの第一人者として知られる片野元彦(1899-1975)が絞りの道に専念したのは57歳の時、日本民藝館創設者の柳宗悦(1889-1961)に、産地である有松・鳴海の絞りの仕事を再興するよう託されたのがきっかけでした。以降76歳で亡くなるまで「絞染職人」として、天然藍を中心に植物染料を使った絞り染の着物や服地、暖簾や飾布など、生活の中で使用される布の制作に邁進しました。本展では、片野の絞り染作品に加え、書簡などの関連資料や写真、父・元彦の仕事を献身的に支えて父の死後も真摯な仕事を生涯続けた絞り染作家の長女・かほりの作品も紹介します。



木綿地藍染筋立段紋折巻絞広巾  
片野元彦 1970年代前半

## 特別展 全国郷土人形展(仮) 第1・第2民芸館

12月17日(土)～5月7日(日) <観覧料 有料>

郷土人形は、江戸時代中頃より節句物、縁起物として日本各地で制作されました。庶民の間で身近な紙、木、土といった材料で作られた人形には、暮らしの中の祈りや願い、憧れが込められたのです。本展では、京都・伏見人形をはじめ、宮城・堤人形、山形・相良人形、福島・三春人形、埼玉・鴻巣人形など、素朴な美しさをたたえた全国各地の郷土人形を紹介します。



東北の土人形(江戸期) Photo by Tetsuo Ito  
後列 左より 花巻(花巻)、堤(仙台)、相良(米沢)  
前列 左より 根子町(福島)、鶏渡川原(酒田)、附馬牛(遠野)

## 民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内

令和4年 5月22日(日) まで		令和3年度民芸館講座作品展
5月31日(火) ～	7月31日(日)	暮らしのなかのガラス展
8月7日(日) ～	8月28日(日)	みんなの作品展
9月3日(土) ～	10月23日(日)	館蔵 藍染の絞り
10月29日(土) ～	11月27日(日)	第8回 伝承拳母木綿展
12月3日(土) ～	令和5年 2月5日(日)	郷土玩具展 干支と卯
2月21日(火) ～	5月21日(日)	令和4年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となることがあります。

# 民芸館からのお知らせ

※新型コロナウイルス感染症の影響で内容が変更になる場合があります。

## ① 平戸橋桜まつり2022を開催

4月2日(土) 雨天決行 午前10時～午後3時

### ◆ 民芸館を含む平戸橋公園会場

野外ステージや豊田市民俗芸能祭、食品バザー、クラフトショップ、民芸館講座体験、こども園による絞りの作品展示、写生大会、スタンプラリー等

### ◆ 民芸の森会場

森の市(食品販売やクラフトショップ)  
猿投台リトルハーモニーによる合唱  
狂言舞台でやきものやみんなで作った絞り染めの展示



こども園絞り染め作品展示の様子



桜まつり2021 民芸館クラフトショップの様子

## ② 春の勘八峡 桜ウィーク

3月19日(土)～4月3日(日)

桜の開花にあわせて上記期間にさまざまな催しを行います。

### ◆ 茶室 勘八亭の平日営業(月曜日は休業、通常営業は土日祝日)

時間：午前10時～午後4時 料金：一服400円(菓子付)

### ◆ 民芸館・民芸の森・いこいの広場の3館を見学しよう！

「民芸館・民芸の森ウォーキングマップ」に3館のスタンプを押して、民芸館ポストカード、または民芸の森クリアファイルを手に入れよう！  
スタンプの設置場所は、民芸館(第3民芸館)と民芸の森(田舎家)、平戸橋いこいの広場(受付)です。  
4月2日(土)は桜まつりキーワードラリー開催のため、イベントを中止いたします。

時間：午前9時～午後4時30分 入館：無料

## ③ 絞り染めこいのぼりの展示と絞り染めこいのぼり作り

新緑ウィーク期間中【4/23(土)～5/9(日)】絞り染めこいのぼりを展示します。

また、絞り染めのこいのぼり作り体験も実施します。

### ◆ こいのぼりの展示

期間：4月23日(土)～5月8日(日)

会場：第3民芸館前、民芸の森

### ◆ 絞り染めこいのぼり作り

日時：4月24日(日) 13時～15時

会場：陶芸資料館1階染色室

参加費：1,400円(中学生以下1,200円)

対象・定員：どなたでも・12名

申込み：往復はがきかホームページの

講座申込みフォームで(4/14必着)、詳細は民芸館へ



民芸の森での展示風景



絞り染めこいのぼり作り

## お問合せ 豊田市民芸館(豊田市生涯活躍部文化財課)

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100

TEL 0565-45-4039 FAX 0565-46-2588

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)

開館時間 午前9時～午後5時

入館料 無料(特別展は有料)

<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

## 豊田市民芸の森

〒470-0331

豊田市平戸橋町石平60-1

TEL 0565-46-0001

